

2022年11月期
第3四半期
決算補足説明資料



ティアンドエス株式会社

(東証グロース 4055)

2022.10.14

T&S

Technology & Service

2022年11月期 第3四半期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高・営業利益	p. 9
事業環境	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
業績予想進捗率	p. 14
株主還元	p. 16

(今期のテーマ) 成長の加速

1 過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 23億38百万円 (18.4%増↑、増加額: 3億62百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 4億23百万円 (52.1%増↑、増加額: 1億45百万円)	(同)
経常利益	: 4億31百万円 (51.9%増↑、増加額: 1億47百万円)	(同)
四半期純利益	: 3億 2百万円 (51.7%増↑、増加額: 1億 3百万円)	(同)

2 先進技術ソリューションが躍進。その他のカテゴリーも順調推移

- 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同四半期比**61.1%増**と躍進。AI関連の研究開発支援サービス、論文調査支援などの継続受注や新規取引先からの受注が順調に推移。特に、前期に引き続き堅調な日本電気株式会社等の既存取引先からの案件に加え、新規の取引先も増え、全社に占める当カテゴリーの売上構成比は前年同期5.7%から、当第3四半期7.7%へ拡大。
- ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**13.6%増**。主要取引先からの受託開発案件の受注が引き続き堅調に推移。特に、前期から始まった主要取引先である半導体メーカーからの工場内システムの大型開発案件が寄与。
- 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**25.4%増**。好調な半導体市場を背景に主要取引先からの継続的な受注が順調に加え、さらなる増員要請があったことにより半導体工場における保守・運用サービスに係る派遣エンジニア数が堅調に推移。

3 3Q累計売上高の進捗率が例年を上回り、業績連動賞与も引当計上

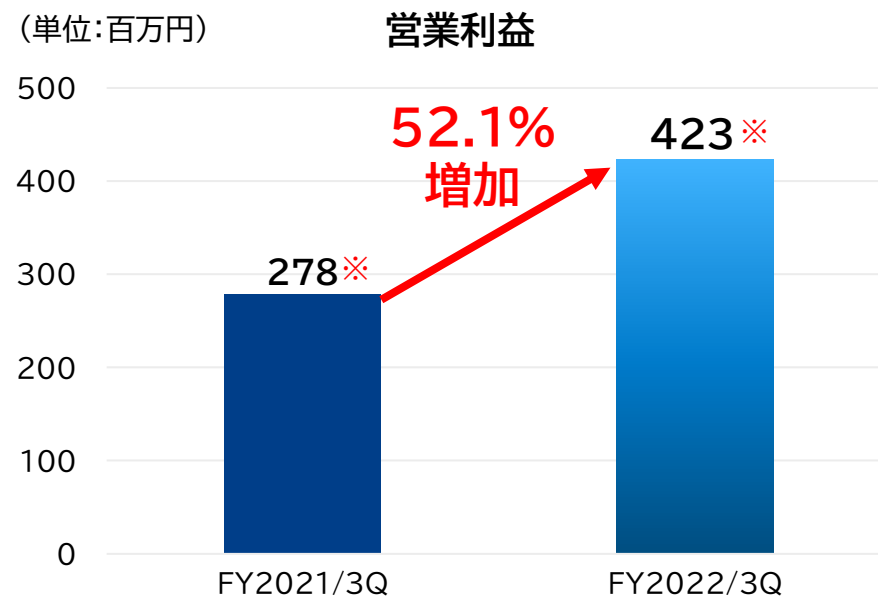
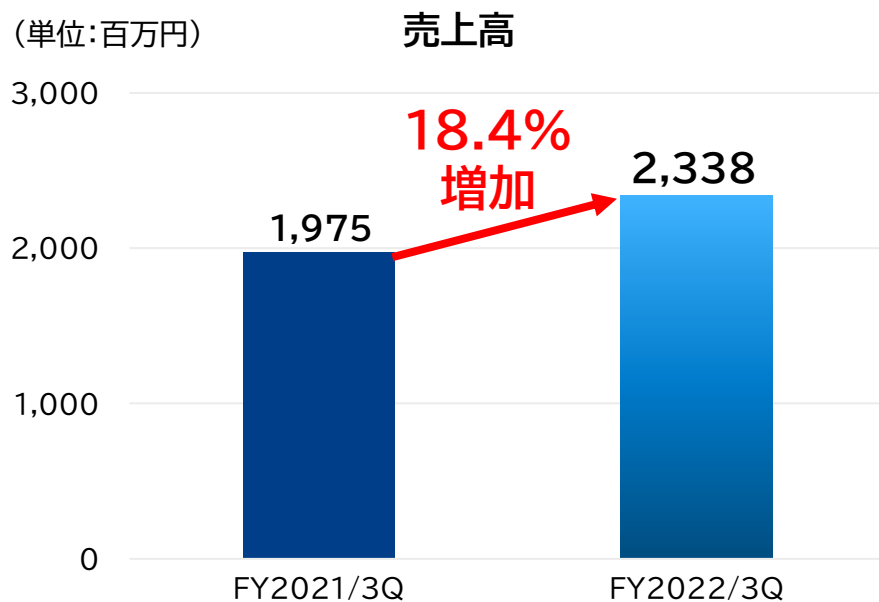
- 前期3Q累計売上高の構成比72.3%に対し、当期は通期予想に対する**進捗率が75.4%**となった。
- 前期に引き続き、営業利益の一部を従業員に還元。3Q分の業績連動賞与55百万円を引当計上するも、営業利益率**18.1%**を達成。(前年同四半期比4.0ポイント増)

決算概要

2022年11月期 第3四半期

過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 23億38百万円 (18.4%増↑、増加額: 3億62百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 4億23百万円 (52.1%増↑、増加額: 1億45百万円)	(同)
経常利益	: 4億31百万円 (51.9%増↑、増加額: 1億47百万円)	(同)
四半期純利益	: 3億 2百万円 (51.7%増↑、増加額: 1億 3百万円)	(同)

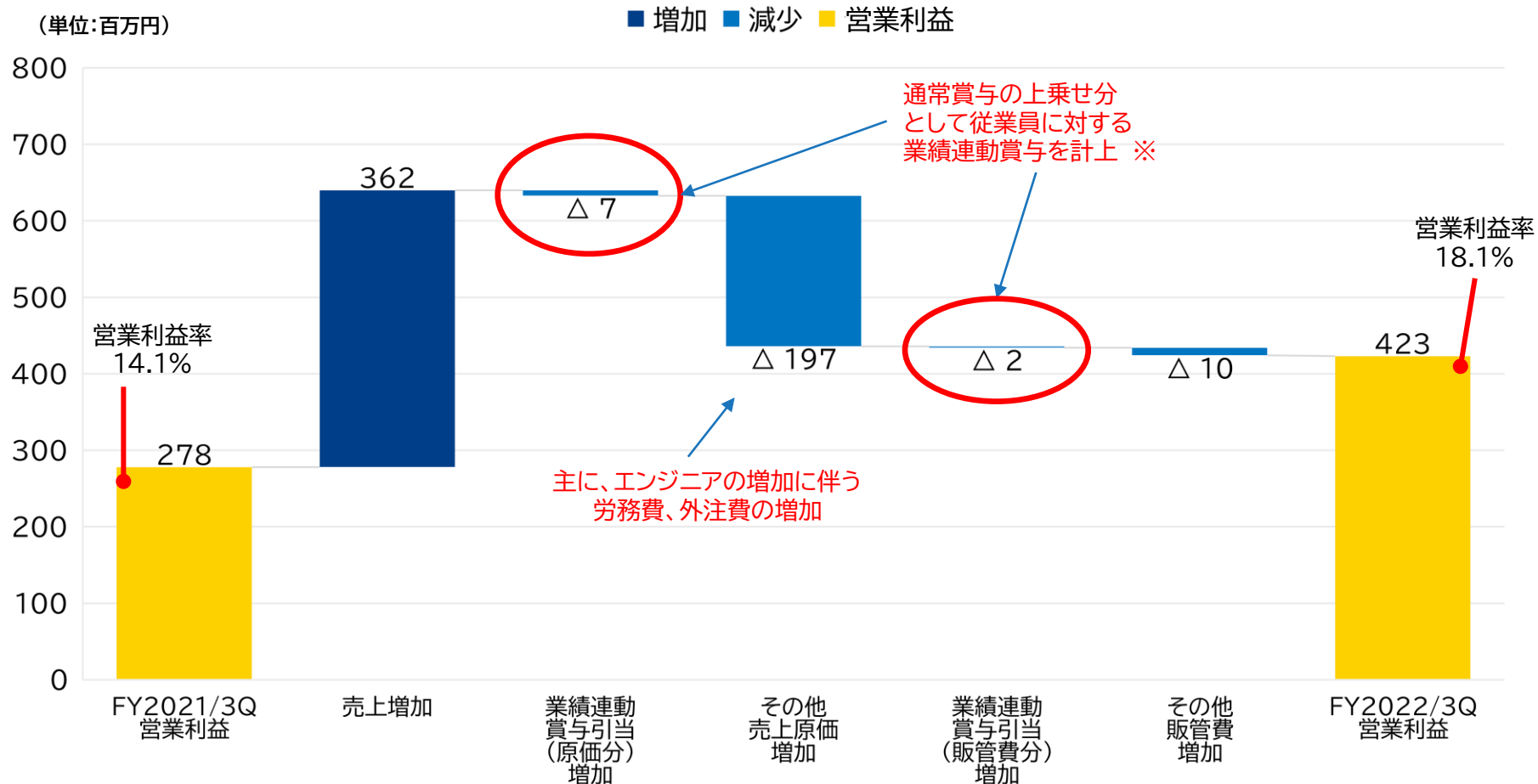


※好業績に鑑み、従業員向けの業績連動賞与をFY2022/3Qに55百万円、FY2021/3Qに45百万円計上しています。

営業利益の状況(FY11/2022 3Q)

業績連動賞与を吸収し、1億45百万円の営業利益増

(前年同四半期比)



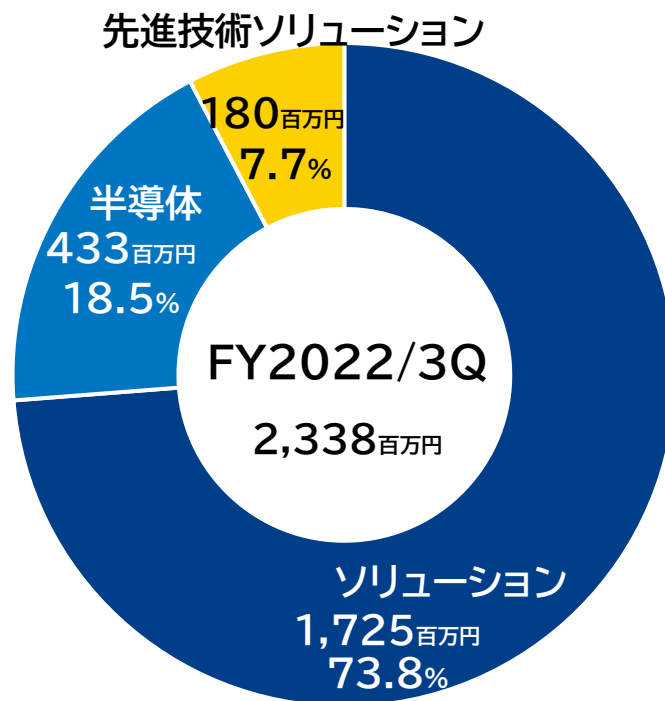
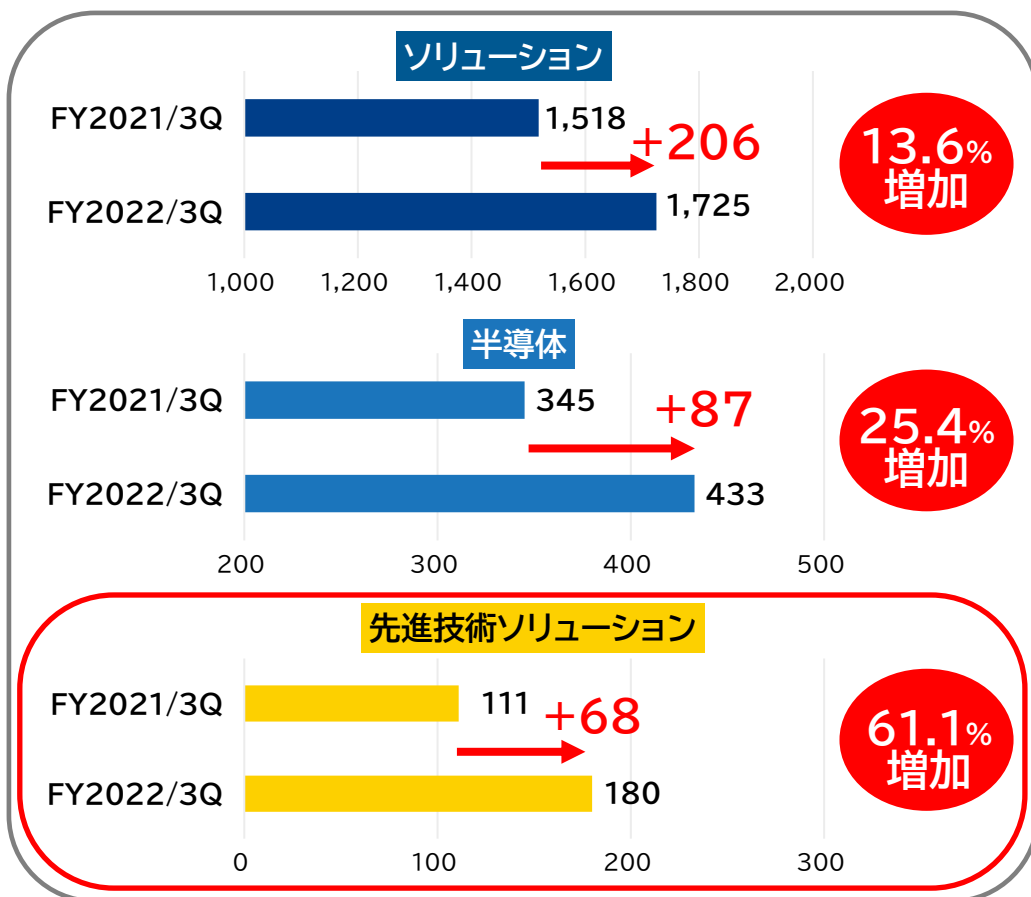
※FY2022/3Qに55百万円、FY2021/3Qに45百万円計上しています。

カテゴリー別売上高(FY11/2022 3Q)

全てのカテゴリーにおいて増収
先進技術ソリューションは**61.1%増加**
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) (単位:百万円)

売上比率(カテゴリー別)



(注)当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

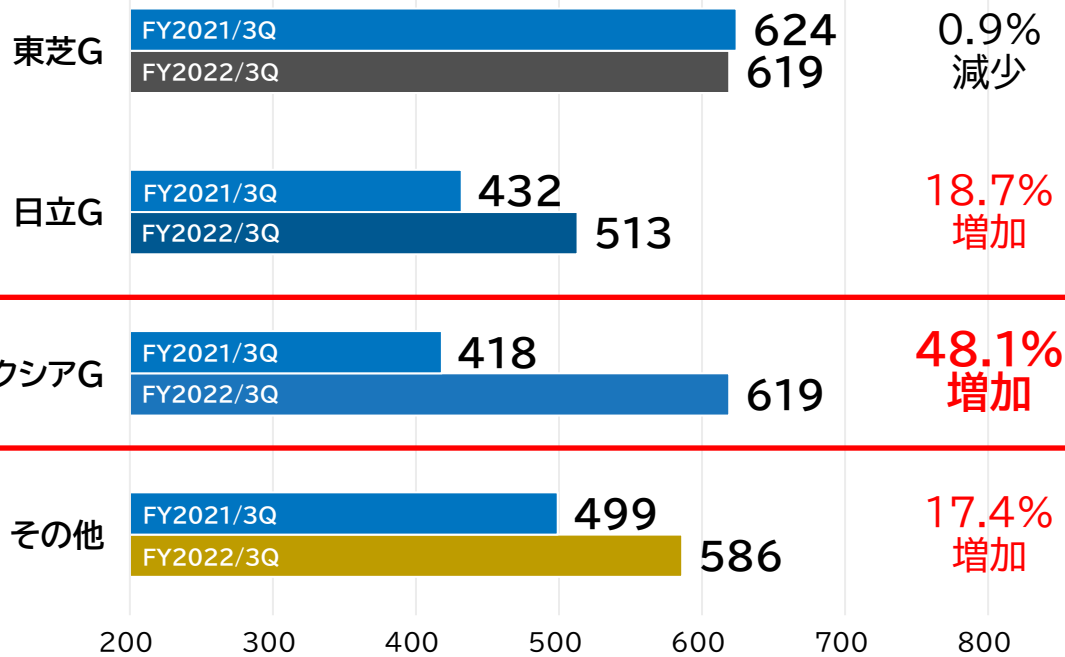
取引先別売上高(FY11/2022 3Q)

東芝G、日立G、キオクシアG

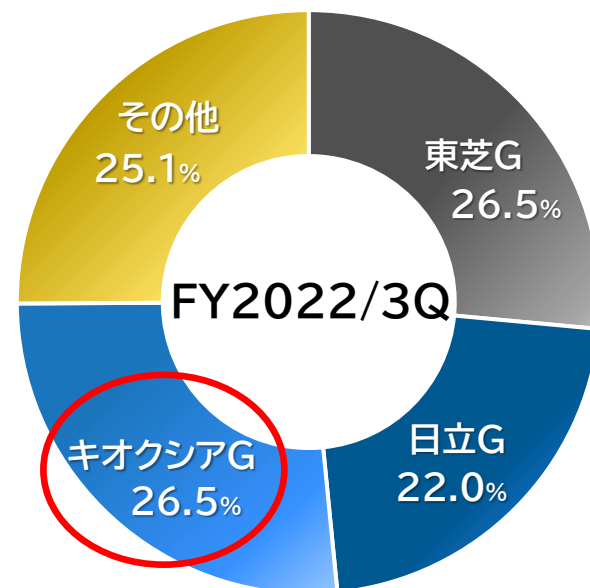
主要取引先は安定して推移
キオクシアGの増加が著しい

(48.1%増加(前年同四半期比) 構成比26.5%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



売上比率(取引先別)



(注)東芝Gの再編に伴い、当四半期よりキオクシアエンジニアリング(株)(旧:中部東芝エンジニアリング(株))に対する売上高をキオクシアGとして集計しています。

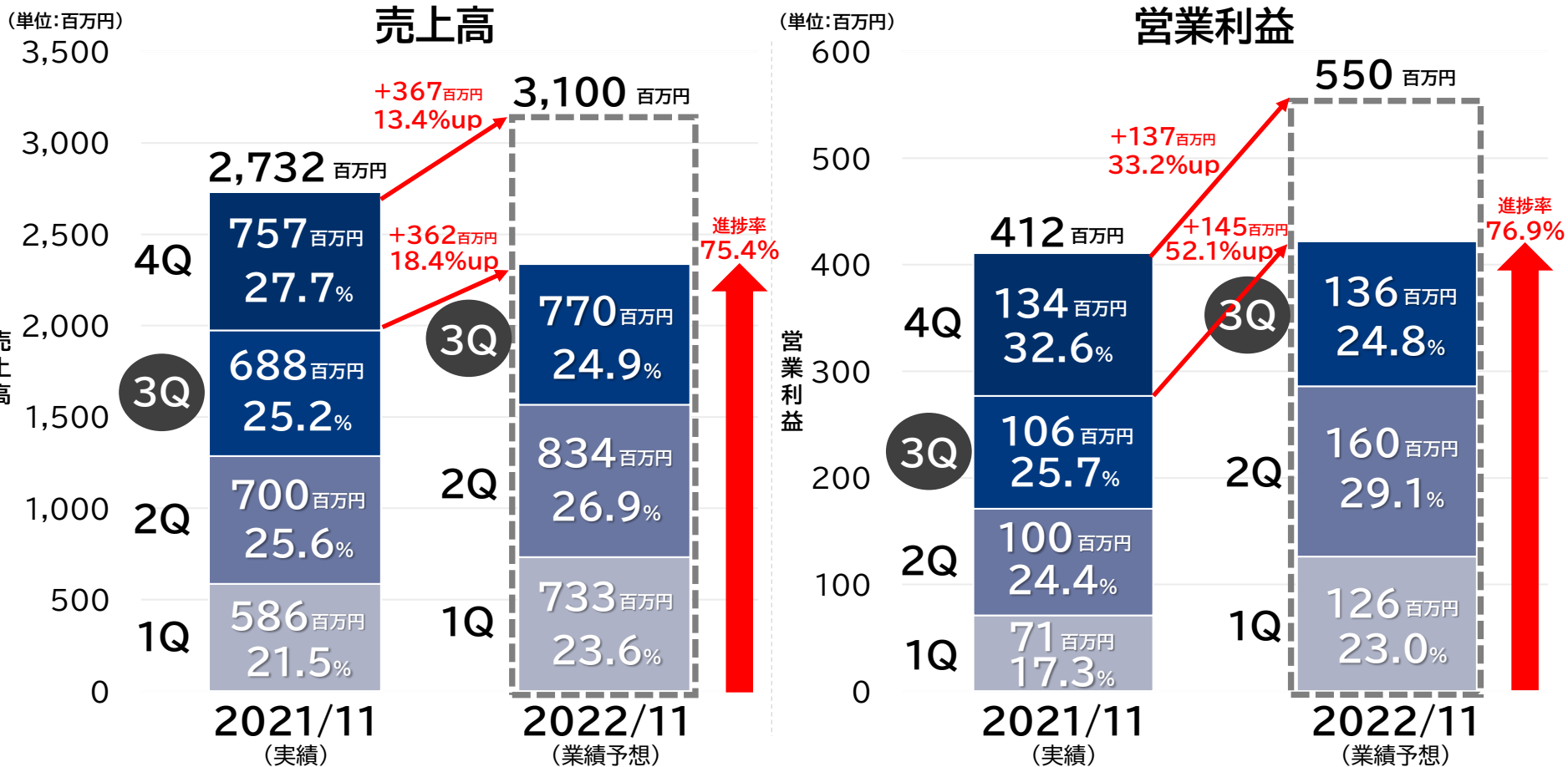
四半期別売上高・営業利益(FY11/2022 3Q)

3Q累計売上高: 23億38百万円

増加額: +362百万円 18.4%増加 進捗率: 75.4%
(前年同四半期比) (対通期業績予想進捗率)

3Q累計営業利益: 4億23百万円

増加額: +145百万円 52.1%増加 進捗率: 76.9%
(前年同四半期比) (対通期業績予想進捗率)



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

当社主要取引先の動向

(2022年10月14日現在)

当社を取り巻く事業環境は引き続き好調。一服感がみられるとも言われる半導体業界も、足元では高操業度を継続しており、関連企業の投資意欲も旺盛。各社とも、新型コロナウイルスの影響は克服しつつある一方、地政学的リスクへの対応が課題となっています。

東芝G

車載用半導体やエネルギー、インフラ関連の需要が堅調。なかでも、当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントが好調であることは、当社にとって追い風とみています。

日立G

市況の回復とグループ会社の再編により、連続して最高益更新。ITサービスと送配電関連のエネルギーセグメントが堅調で、当社業務に関連する設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、増加が期待されます。

キオクシアG

旺盛な半導体需要が継続していたものの、足元では生産調整の動きも。四日市工場の新製造棟建設に国から929億円の助成金。北上工場の新製造棟着工や東芝子会社だった中部東芝エンジニアリングの買収など投資拡大が続き、長期的には当社にとっての受注拡大が期待されます。

その他

AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカ、精密機械メーカ、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

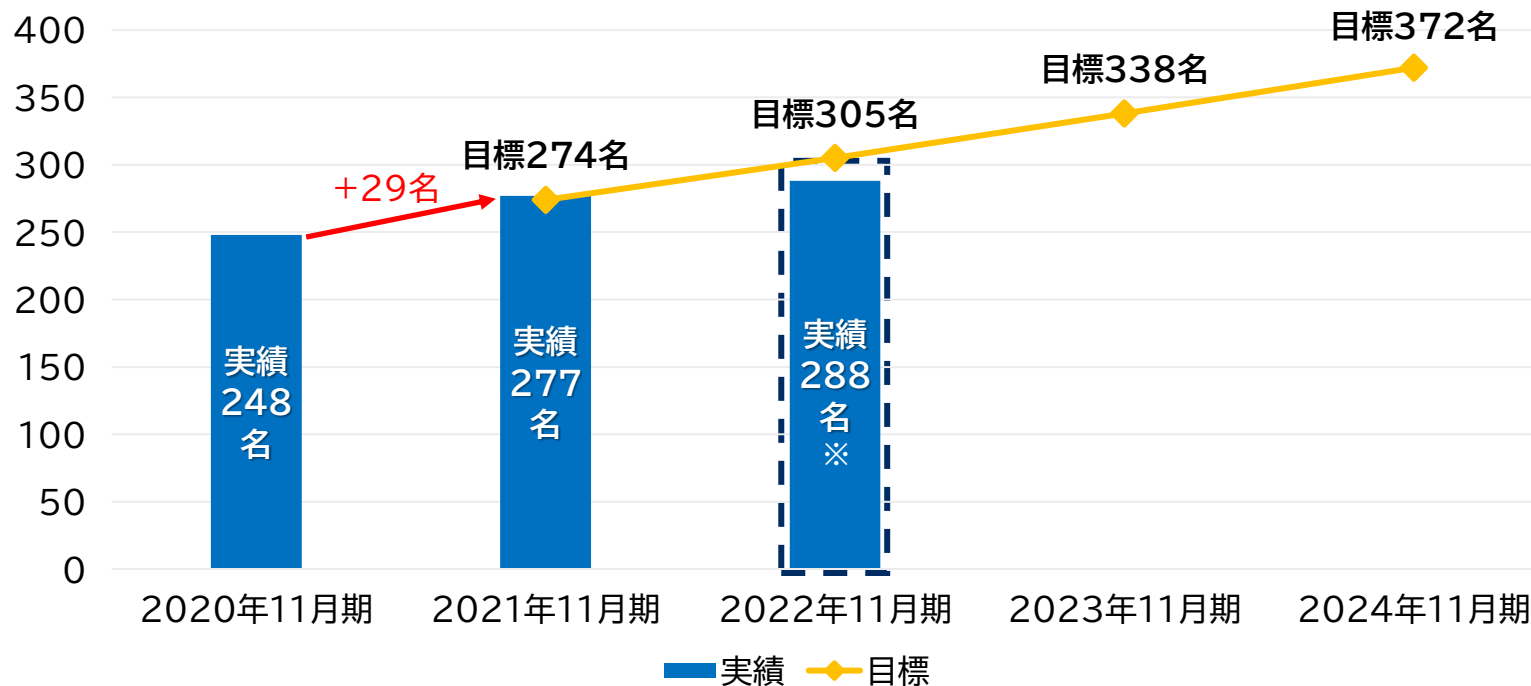
(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

エンジニアの採用に苦戦

増員率 **4.0%** ※

増員方針 全エンジニア数の約10%





(単位:エンジニア数)



※2022年10月14日時点

損益計算書(FY11/2022 3Q)

損益計算書(FY11/2022 3Q)

単位:千円	FY11/2021 3Q	FY11/2022 3Q	増減額	増減率
売上高	1,975,571	 2,338,440	362,868	18.4%
売上原価	1,414,880	1,620,367	205,486※	14.5%
売上総利益	560,691	718,072	157,381	28.1%
販売費及び一般管理費	282,481	294,799	12,317※	4.4%
営業利益	278,209	 423,273	145,064	52.1%
(営業利益率)	(14.1%)	(18.1%)		
経常利益	284,274	 431,739	147,464	51.9%
(経常利益率)	(14.4%)	(18.5%)		
四半期純利益	199,544	 302,735	103,191	51.7%
(四半期純利益率)	(10.1%)	(12.9%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与FY2022/3Qに55,000千円、FY2021/3Qに45,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY11/2022 3Q)

貸借対照表(FY11/2022 3Q)

単位:千円	FY11/2021	FY11/2022 3Q	増減
流動資産	1,869,946	1,859,871	△10,075
固定資産	117,500	157,650	40,150
資産合計	1,987,447	2,017,522	30,074
流動負債	440,851	374,148	△66,702
固定負債	51,513	47,373	△4,140
負債合計	492,364	421,521	△70,843
株主資本合計	1,495,082	1,596,000	100,917
純資産合計	1,495,082	1,596,000	100,917
負債純資産合計	1,987,447	2,017,522	30,074

業績予想進捗率

2022年11月期 通期

通期予想に対し順調に推移

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2021年11月期 (実績)	2022年11月期 (予想)	2022年11月期 第3四半期(実績)	進捗率
売上高	2,732	3,100 (前期比:13.4%増)	2,338	75.4%
営業利益	412	550 (前期比:33.2%増)	423	76.9%
経常利益	419	557 (前期比:32.9%増)	431	77.5%
当期(四半期)純利益	294	391 (前期比:32.7%増)	302	77.4%

全社
 売上高は前年同四半期比18.4%増。すべてのカテゴリーにおいて好調に推移。東芝G、日立G、キオクシアGといった主力顧客からの開発案件が堅調。今期3Q累計売上高は通期予想に対して75.4%の進捗となった。技術者リソースを補うため、外注の利用を増加させているが、好採算案件へのシフトも奏功し、粗利率は30.7%を確保。業績連動賞与の引当55百万円を吸収し、営業利益は423百万円と前年同期比52.1%増。営業利益率は18.1%。

ソリューション
 前年同期比13.6%増。主要取引先からの受託開発案件の受注が引き続き堅調に推移。特に、前期から始まった主要取引先である半導体メーカーからの工場内システムの大型開発案件が寄与した。

半導体
 前年同期比25.4%増。好調な半導体市場を背景に主要取引先からの継続的な受注が順調に加え、さらなる増員要請があったことにより半導体工場における保守・運用サービスに係る派遣エンジニア数が堅調に推移し、増収増益に寄与した。

**先進技術
ソリューション**
 前年同期比61.1%増と躍進。AI関連の研究開発支援サービス、論文調査支援などの継続受注や新規取引先からの受注が順調に推移。特に、前期に引き続き堅調な日本電気株式会社等の既存取引先からの案件に加え、新規の取引先も増え、全社に占める当カテゴリーの売上構成比は前年同期5.7%から、当3Qは7.7%へ拡大。

株主還元

自己株式の取得は終了しました

配当の基本方針

当社は、将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させることを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2022年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり5円00銭(実質1円増配)を予定しております。
これに加え、2022年1月から7月にかけて、自己株式の取得を行いました。

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	総還元性向(※)	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期(予想)	5円00銭	54.4%	24.6%

※ 自己株式の取得結果を加味した値です。

自己株式の取得結果は以下のとおりです。

取得した株式の総数	株式の取得価格の総額	取得期間(約定ベース)
130,400株	174,873,500円	2022年1月14日～2022年7月13日

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営管理部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。